

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和4年3月31日

事業所名放課後等デイサービス クックルームよこて

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	車椅子利用者が横になれるように整理整頓を心がけている。	引き続き、スペースを有効に活用していきます。
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%		今後ご利用者に対して適切、または多めの職員を配置して、よりきめ細かな支援を行っていきます。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%	0%	設備の定期的な点検を行い、修繕、改善を行っている。	スロープ、手すりなどを設置し、安全に過ごせるようしています。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%		定期的に話し合う機会を設けていますが、頻度、内容ともに見直してさらに充実させていきます。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%		定期的なアンケートを実施し、保護者様のニーズや意見を発達支援の向上につなげていきます。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%		毎年ホームページで公表しています。今後も継続していきます。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	100%	0%		今後も継続していきます。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%		研修については年間計画を作成し、様々な内容の研修を行うことで職員の支援力向上に努めています。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%		適切なアセスメントは発達支援を行う上で必要不可欠であるので、今後とも丁寧に実施していきます。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%		障がいの特徴によっては必要により適切なアセスメントツールを使用することもあるので、今後も継続して使用していきます。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	支援会議でスタッフみんなで話し合っている。	定期的に会議を実施し、スタッフ同士意見を出し合い実施可能な活動内容を決定しています。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	・季節に合った活動を無理なく計画している。 ・季節は取り入れているが、マンネリ化してきているので模索している。	ご利用者の状況に合わせた活動内容を実施していますが、今年度は感染予防のため外出できないことが多く、活動範囲が広がらなかったと感じています。今後はバリエーションを増やすなどして工夫していきます。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%		利用時間が様々なので個々の状態に応じて支援を行いましたが、今後もよりきめ細かい支援方法を構築していきます。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	はっきりと分けて計画は作っていないが、どちらも対応できるよう内容になるようにしている。	個々の発達状況に応じて活動内容を検討し、それぞれ偏らないような計画を作成していきます。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	50%	50%		ご利用者の送迎や利用状況により、スタッフ全員の打合せが不十分なことがあります。支援の途中でも個々の課題や目標を確認して共通理解するようにしています。今後も引き続き職員間の周知を図っていきます。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	・保護者様からの話や気になることをスタッフから聞くようにして、会議などで伝えている。 ・支援終了時はスタッフがそろわないので、必ずということではないが情報共有に努めている。	今後ともスタッフが気づいたことなどを支援後の業務日誌に記述し、共有していきます。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%		支援の振り返りは保護者様への連絡ノートや利用状況の記録などを通して共有しています。迅速な情報共有にも役立てています。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	支援会議で問題点を共有している。	モニタリングの時期にサービス計画の見直しを行い、日々の変化等をスタッフと共有しています。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	100%	0%		今後とも基本活動に沿った充実した支援を行っていきます。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	・児童発達支援管理責任者が参加している	今後も専門的な立場から責任をもって参画していきます。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	・必要に応じてFAXや電話での連絡を行っている	学校へのお迎えの際に担任から対面にて最新の情報伝達を得ています。学校の様子や課題について伺い、適切な対応を行っています。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている				
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%	0%	・通園施設で作っているサポートブックはいただいで、活用している	必要に応じて契約時または事前に情報共有を行っています。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%	0%	・2年前卒業生を送り出したが口頭ではその都度報告している。	事業所からの支援内容等を文書等で具体的に情報提供できるように検討していきます。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	50%	50%		お子様の障がいについて配慮事項が発生したときは、積極的に専門機関と連携していきます。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	100%		体調が不安定なお子様や持病のあるお子様のご利用が多いため、感染症予防に十分注意して慎重に再開していきます。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0%	100%		今年度は外部との接触を可能な限りなくしていました。今後も地域の感染状況等を十分に踏まえながら、参加を検討していきます。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	・送迎時や必要であればお電話で連絡をし、お子さんの様子を共有している。 ・送迎時に短い時間ではあるが共有している。	今後とも丁寧なコミュニケーションを図っていきます。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	0%	100%	コミュニケーションの研修があり、受講した。	保護者様への支援向上についての具体的な支援は実践できていません。支援についての質問や相談に応じながら、専門的な立場から必要な助言等の支援を行っています。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%		今後とも丁寧な説明を心がけていきます。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	・相談があればできる範囲で対応している。 ・送迎時に短い時間ではあるが共有している。	ご相談にはできるだけ丁寧に対応しています。お電話での対応に加えて送迎時に対面して直接お話することも行っています。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	100%		今年度は保護者様同士が対面での交流ができませんでした。今後はインターネットや広報誌等を通じて連携がとれるように工夫していきます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%		苦情受付担当等も記載しており、苦情等の話がきたときは、素早く連絡し話を伺うようにしています。また、そのようなことがないよう日々の支援に配慮しています。今後も迅速かつ丁寧な対応を行っています。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	Twitterやブログで日常の様子をお伝えしている。	インターネット環境が不十分なお家庭でもお子様の活動状況がわかるように、文書等でも発信するなど工夫していきます。
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%		今後とも漏れのないように丁寧な対応を行っています。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	・研修で学んだことを活かしながらコミュニケーションをとっている。	個々のコミュニケーション能力に応じた方法やツールを工夫してコミュニケーションを図っています。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	100%		ご利用者の感染予防のため現在は交流を休止しています。代わりに職員が出向き、地域との連携が途切れないようにしています。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%		定期的に各マニュアルを見直し、最新の対応を保護者様への文書伝達と同様に職員間でも周知しています。今後も継続していきます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	年に2回行っている。	ご利用状況に応じて避難訓練への参加ができるように配慮するとともに、保護者様への周知を進めています。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	50%	50%		虐待防止の研修を受講し、職員間で共通な意識を持つように心がけています。職員の異動なども考慮し、今後も継続していきます。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	50%	50%		身体拘束については障がいの特性を理解することで予防できると考えるので、実際には拘束することはありません。安全が確保できなかったり危険な状況にならないように事前に配慮しています。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	50%	50%	指示書等はないがアレルギーのある食品の提供はしていない。	アレルギー等の配慮事項については、保護者様と綿密な連携を行い安心安全にご利用ができるようにしていきます。必要があれば保護者様を通じて医師の指示を仰いでいきます。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	共有し、どうして、なぜを支援会議で話し合っている。	ヒヤリハットは迅速に本部に報告し、各事業所間で共有することで事故を未然に防ぐことができます。今後も職員間で周知徹底していきます。